

シリーズ 明治 150 年③・完

磐田に残る 明治の記憶



今年、明治元年（1868年）から起算して満150年。
明治以降、日本はさまざまな分野で近代化への取り組みを進め、
近代国家としての礎を築きました。
この近代化の波は、やがて私たちの住む地域にもやってきます。
このシリーズでは、明治期の磐田市の様子をご紹介します。
シリーズ最終回は、「茶業の発展」と郵便制度の父「前島 密」です。

大 藤地区を中心に広がる磐田原台地は、近世まで山林が多く、開けた場所の多くが草刈り場として利用されていました。
安政6年（1859年）、横浜が開港して欧米との貿易が始まると、日本茶は輸出品の花形として需要が高まり、県内の茶業は急速に発達していききました。
明治時代初期に、旧幕臣たちの手によって磐田原台地で茶園の開墾が始まると、シリーズ①（広報いわた5月号）で紹介した赤松則良らは、約20畝を開墾して茶園を開きました。

輸出品の花形 茶業の発展



▲◀明治時代初期から大正時代にかけての茶摘みの様子【写真①】と現在の磐田原台地の茶園【写真②】



旧幕臣が開墾した土地がそのまま所有地として認められたこと、当時お茶が高値で取り引きされていたこと、平坦な地形で多くの日照があり、温暖な気候の磐田原台地がお茶の生産に適した土地であったことなどが開墾が進んだ理由と考えられます。
この地で生産されたお茶は、現在でも多くの人に愛されています。

（参考）磐田の記録写真集 第二集 磐田の産業
平成15年3月 磐田市教育委員会発行

郵便制度の父 前島密ひそか



▲▶前島密胸像と当時を再現したポスト（JR磐田駅南口ロータリー）[写真①]、子どもたちにも親しまれている郵便制度（御厨郵便局）[写真②]、前島密の肖像が描かれた1円切手 [写真③]



前島密は、越後国（現在の新潟県）に生まれ、明治2年（1869年）年1月に中泉奉行として磐田にやってきました。旧中泉代官所（中泉陣屋）で一般住民や移住した士族のために行政を行ったほか、明治元年に起こった水害で被害を受けた人々を救うため、近隣の寺院の協力を得て「中泉救院」を開設しました。

その後、明治政府に出仕すると、明治3年（1870年）から11年間もの間、郵政の長として日本の近代郵便制度の基礎を築きました。

が描かれています。明治13年（1880年）には、船乗りの素質の向上とその保護救済などを目的とする「日本海員救済会」を発足させ、その発展に尽力しました。同会の会長を赤松則良が務めており、磐田ゆかりの2人には親交があったことがうかがえます。

（参考：いわた文化財だより）

日本時代

本近代化が急速に進んだ明治時代。明治元年から150年が経ち、時間の経過と共に薄れゆく明治の記憶。現在の私たちの暮らしの中に変わらず残っているもの、姿を消してしまったもの、さまざまです。広報いわた5月号から全3回に渡ってお送りした「シリーズ明治150年」。市内には、このシリーズで紹介したもの以外にも、さまざまな「もの」や「こと」が残っています。「平成」の時代も残すところ後数カ月となりました。来たるべき新時代に思いを馳せつつ、過去の記憶に目を向けてみるのはいかがでしょうか。

ご利用ください、レファレンス

「こんなことを調べたい」「こんな資料を探している」、そんな時はぜひレファレンスカウンターをご利用ください。

- ▶中央図書館（見付3599-5 ☎32-5254 FAX32-5154）
開館：火曜～金曜 午前9時～午後7時
（土・日曜・祝日は午後5時まで）
- ▶歴史文書館（岡729-1 ☎66-9112 FAX66-9722）
開館：月曜～金曜 午前9時～午後5時
（入館は午後4時30分まで）

※歴史文書館は、歴史的資料のみ取り扱い
※デジタル化資料の検索・閲覧は「電子図書館」が便利です。電子図書館は、「磐田市立図書館」ホームページからご覧ください

磐田市立図書館



Topic

遠州地方に維新の風を

大久保春野はるの

慶応4年（1868年）の鳥羽・伏見の戦いで勝利し、徳川氏追討のため江戸に向かった官軍に協力するために結成されたのが遠州報国隊です。官軍とともに江戸へ向かった遠州報国隊は、江戸城周辺の警備などを勤めました。



▲明治末期～大正初期の大久保春野

弘化3年（1846年）、淡海国玉神社（見付）の神官の子として生まれた大久保春野は、遠州報国隊の中心として明治維新に関わり、後に陸軍大将となっています。

大久保春野宛の書簡を公開

このほど市に寄贈された、兵学者の大村益次郎の門下生や明治政府関係者から堀江提一郎（大久保春野が改名）に宛てられた書簡を公開します。

▼とき

11月19日（月）～26日（月） 午前9時～午後4時30分（土・日曜、祝日休館）

▼ところ

歴史文書館
2階展示室

▼入場料

無料

▼公開する書簡の一部

